

千葉県
企業と生物多様性セミナー



サンデンにおける 生物多様性への取り組み

2015年2月2日
環境推進本部
齊藤 好弘

2002年 サンデンフォレスト・赤城事業所は「環境と産業の矛盾なき共存」というコンセプトのもとに開設
10年たった今年、その継続的な活動が評価され、グッドデザイン賞に選ばれました



鍋割山

荒山

地藏岳

長七朗山

黒檜山



SandenForest

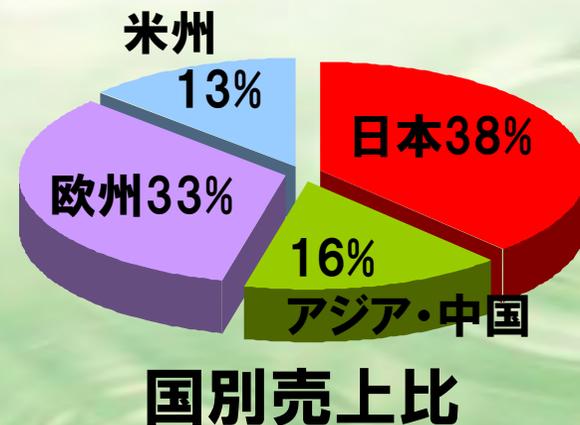
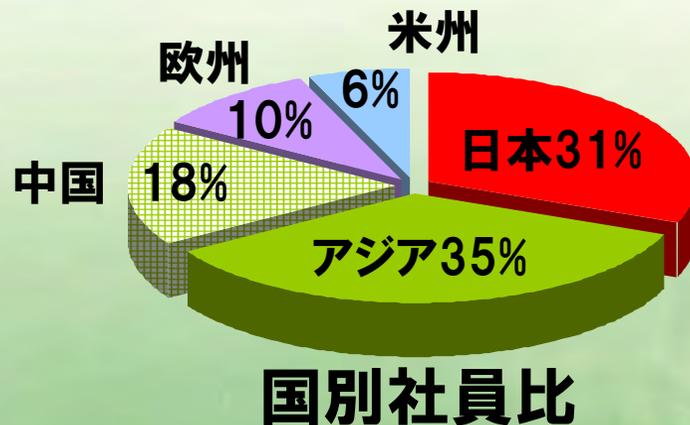
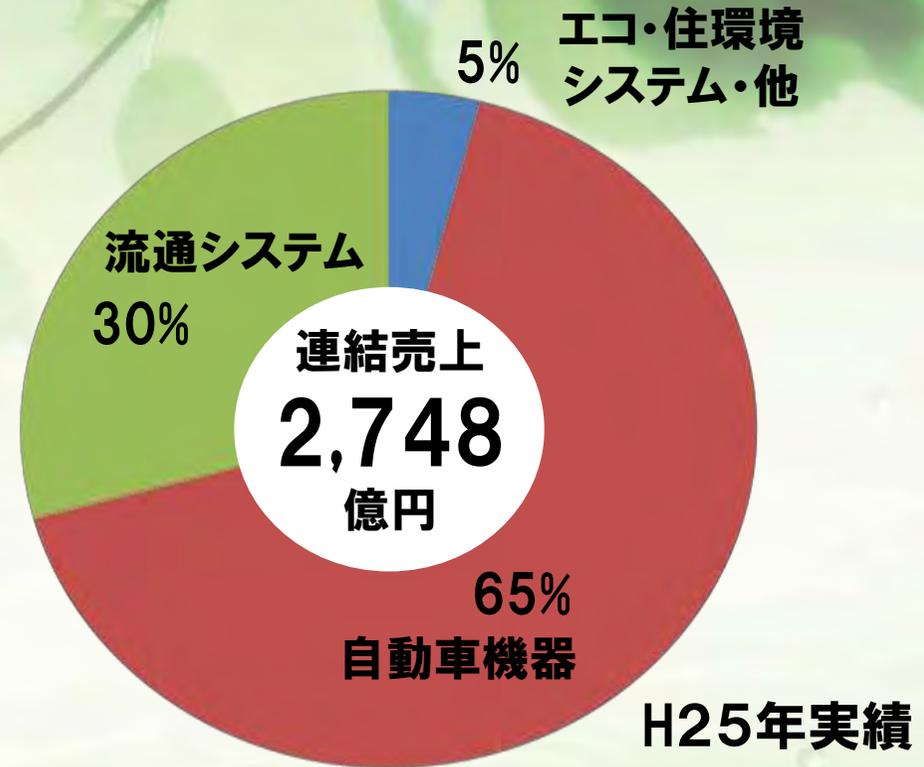
面積	64ha
工場用地	32ha
自然環境	32ha (+6ha)
標高	480m

所在地 群馬県前橋市粕川町中之沢
(202.4稼働)

- 1. 会社概要**
- 2. サンデンの環境活動**
- 3. サンデンフォレストでの取り組み**
 - ①開発(近自然工法)**
 - ②測定(環境モニタリング)**
 - ③NPO／広域連携**
 - ④視察受入(工場＋自然体験)**
- 4. 他拠点での取り組み**

サンデングループ概要

社名 サンデン株式会社
創立 1943年
資本金 110億円
本社 群馬県伊勢崎市
従業員 14,000名(連結)
拠点 23ヶ国54拠点



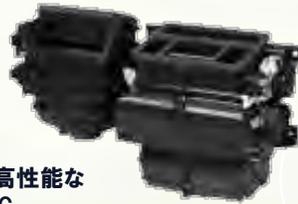
事業紹介

●自動車機器

カーエアコンシステム及びコンプレッサー

カーエアコン用コンプレッサー
世界第2位(シェア25%)
欧州第1位(シェア45%)

- ・ハイブリッドコンプレッサー
- ・スクロールコンプレッサー
- ・外部制御コンプレッサー
- ・長寿命固定容量コンプレッサー
- ・熱交換器(PTCヒーター、エバポレーター、コンデンサー、等)
- ・HVACユニット



軽量、コンパクト、高性能な
軽自動車用HVAC

●エコ・住環境システム

ロードヒーティングシステム



エコキュート
換気空調システム



薄型貯湯タンク
タイプ エコキュート

●電子機器

通信、ネットワーク機器

キャッシュレスカードシステム機器(EDY)
無線通信モデム
RFID機器
(リーダー/ライター、アンテナ)

Edyカード用
リーダー/ライター



アダプター交換で、
CDMA、PHS、FOMA
各通信方式に対応できる
無線通信モデム「Moderno」



●流通システム

飲料自動販売機、冷蔵冷凍ショーケース

コンビニエンスストア用
冷凍・冷蔵ショーケース
世界第1位、国内第3位



飲料自動販売機
世界第1位(25%)
国内第3位



グローバル拠点

『よりお客様の近くで』をコンセプトに、世界4極体制(23カ国・54拠点)で製品を供給しています

North America

Europe

Japan

ダラス工場(SVA)

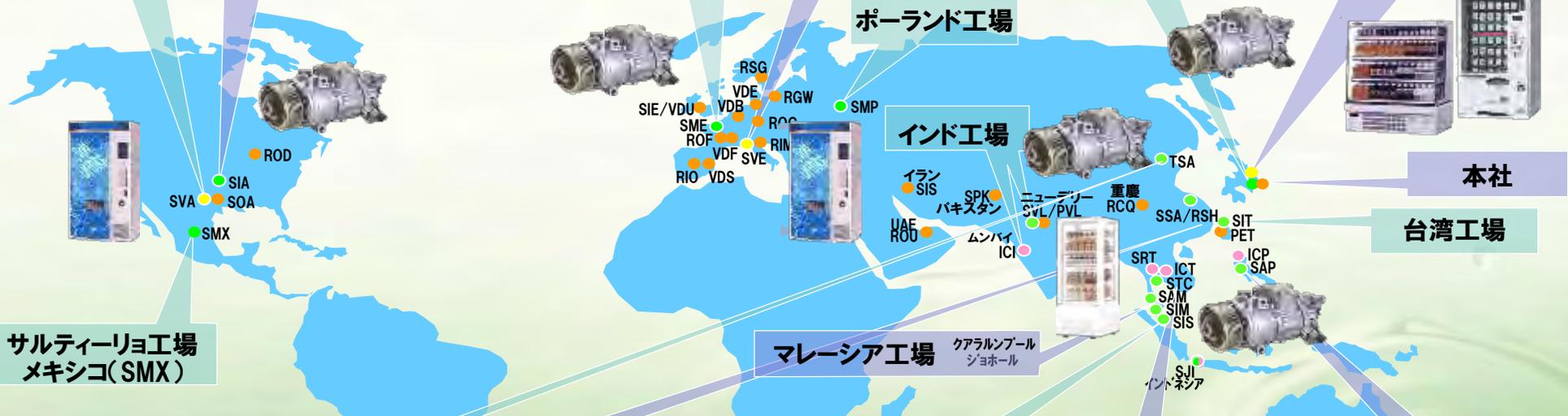
ワイリー工場(SIA)

タンテニアック工場(フランス)

カサーレ工場(イタリア)

八斗島事業所

赤城事業所



サルティエリヨ工場
メキシコ(SMX)

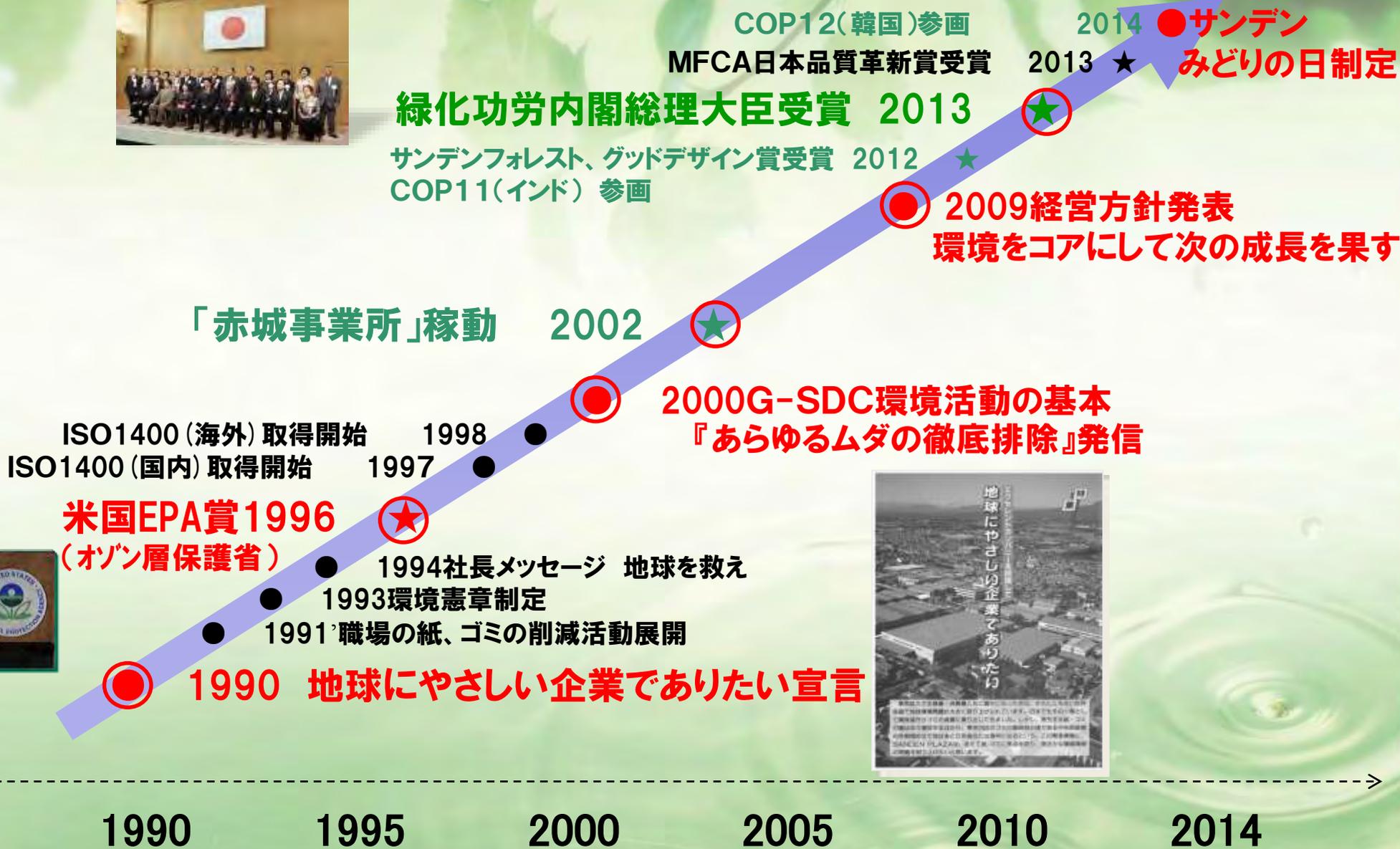
マレーシア工場
クアラルンプール
ジョホール

- 自動車機器生産拠点
- 自販機生産拠点
- 店舗生産拠点
- 販売拠点



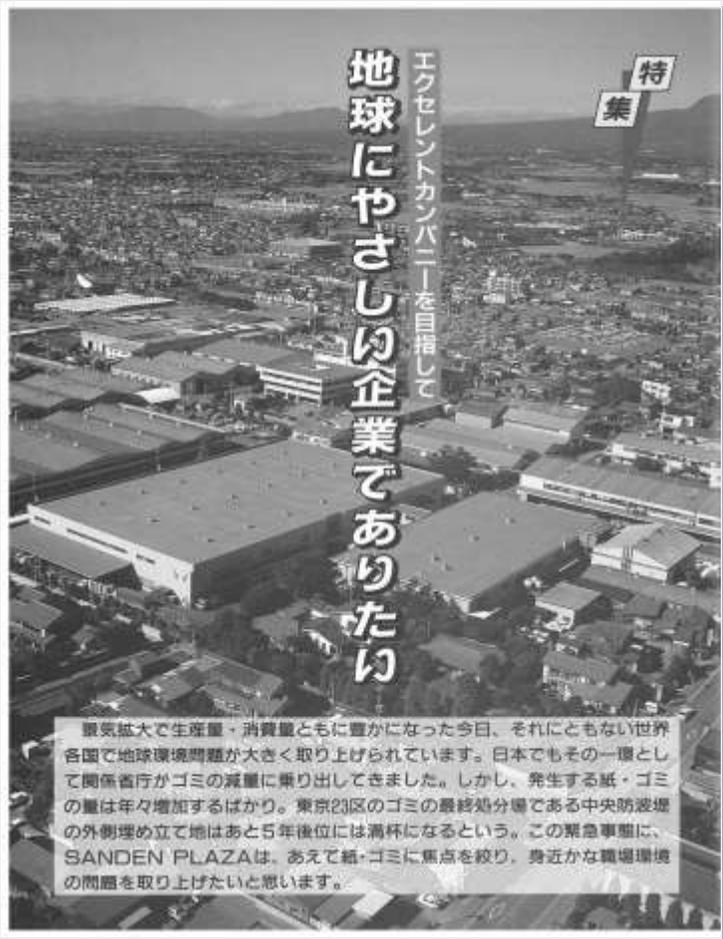
Asia/China

環境活動の歴史



環境への取り組みの原点

エクセレントカンパニーを目指して
「地球にやさしい企業でありたい」



1990年 社内報で特集
景気拡大の中で地球規模の環境問題が発生。
全社挙げての環境保全への取り組みをスタートした。

1993年 環境憲章制定

サンデン環境憲章

環境理念

サンデンは、グローバルな企業市民として、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、安全で美しい地球を次の世代の人々に引き継ぐために、企業活動のあらゆる面で環境の保全に配慮して行動する。

環境行動指針

1. 地球環境の保全活動を推進するための組織を整備するとともに、その活動を確実にするために、環境監査を実施し、活動の維持向上に努める。
2. 企業活動により生じる環境負荷を的確に把握し、環境目的・目標を設定し、技術的・経済的に可能な範囲で、継続的な環境負荷の低減を図る。
3. 地球環境に関するあらゆる環境規制を遵守するとどまらず、自主管理基準を設定し、汚染の予防とより一層の地球環境保全に取り組む。
4. 地球環境に負荷を与える有害物質は、代替技術の採用、代替物質への転換、回収、リサイクルなどを行い、可能な限り削減する。
5. 企業活動のあらゆる面で、省資源、省エネルギー、リサイクル、廃棄物の削減に取り組む。
6. 地球環境保全に関する意識の向上を図るために、全社員に対して、環境教育、社内啓蒙活動を実施する。
7. 広く社会に目を向け、地域社会の環境保全活動に自主的に参加することにより、地域社会の一員として社会に貢献する。
8. 地域環境の保全についての理解と協力を得るために、広く社会に対して広報活動を行い、必要に応じて情報を公開する。

環境から企業価値を創造する

現有の強みを基礎に、
「環境」をコアにして次の成長を果たす

To create corporate values by the environment

We try to grow with the core of the environment
based on the strength we have now.

環 境
Environment

(技術開発・社会貢献) (R&D/Social Contribution)

グローバル力
Global

(創造) (Creation)

品質力
Quality

(STQM)

サンデンの環境活動

SDC's Contribution to the Environment through ...

Business Action

技術開発

「製品開発」と「モノづくり」

- 新製品開発
- 効率(開発/実験)
- 省エネ製品
- 軽量化/小型化
- MFCA
- からくり改善
- TPM活動 ...

製品環境価値

サンデングループの
全ての環境活動の
中心に位置する



環境と産業の共存

全てをサンデンフォレスト
とともに発信する

Social Contribution

社会貢献

あらゆるムダの徹底排除

- 在庫/不良
- 物流/倉庫
- 会議/出張/残業...

生物多様性推進
環境教育の実践
地域連携活動推進

「サンデン環境マインド」を持った社員

エコピープル(eco検定合格者)推移



第7回(09年12月)より全社挙げて受験開始

現時点で約1,700人超の規模

サンデンで40%、グループ会社では25%がエコピープル

エコ検定の推奨

ENVIRONMENT

エコ eco検定(環境社会検定試験)の推奨 Promotion of voluntary actions to take and pass the "Eco Test"

1. 概要 Outline "Eco Test" Certification Test for Environmental Specialist by Tokyo Chamber of Commerce and Industry

サンデングループでは環境に関する一般知識習得のためにeco検定の取得を推奨しています。2009年から取り組みで**認定合格者(エコビープル)**は1,500人を超える規模となりました。
 Sanden Group (domestic) recommends employees to take and pass the "eco test" for acquisition of general environmental knowledge from 2009. Now the number of "eco people", who passed the test is over 1500.

2. ポイント Key Point

管理職からスタートしたeco検定の取得は、その後一般社員と国内子社にも展開されました。サンデンではeco検定の通信講座も展開、新入社員の人材育成にも活用されています。
 Started with managerial people to pass the eco test it was expanded to all employees including the people in subsidiaries. Sanden prepares a correspondence study course for support. It is also utilized as education of fresh recruit.

3. 効果 Effect

営業活動でお客様に環境セミナーを実施しています。また昨年度のeco検定の受験要項に当社の取り組みが掲載されました。
 Holding environmental seminars for customers as a part of sales activities. On the eco test pamphlet, our activities were shown.

4. 出展部門(出展者) Exhibitor



国内フロント
古田 哲男
Mr. Yoshida
(Sales Offices)



赤坂事業所
梶塚 弘一
Mr. Kajizuka
(AP)



八斗巻事業所
赤石 孝康
Mr. Arai
(YP)



環境推進本部
香光 隆男
Mr. Katsuya
(Environment Div.)

エコビープル(国内フロント) Domestic Sales Offices



国際会議への参画



Twelfth meeting of the Conference of the Parties

to the Convention on Biological Diversity (COP 12)

Seventh meeting of the Parties to the Cartagena Protocol on Biosafety (COP-MOP 7)

First meeting of the Parties to the Nagoya Protocol on Access and Benefit Sharing (COP-MOP 1)

29 September – 17 October 2014 Pyeongchang, Republic of Korea

参加国:約160カ国 参加者:約3000名

Session theme :

“Sharing knowledge about biodiversity and economics
for involvement and innovation”

“Challenges and Activities for Biodiversity”

- Neo-Natural Construction Method (Development)
- Environment Survey (Measurement)



CEPA Fair Side Events : UNDB Day

主催:生物多様性の10年日本委員会 等

CEPA : Communication, Education and Public Awareness



涌井史郎 東京都市大学教授
(UNDB-J委員長代理)
基調講演

“Wide-Range Cooperation and Environmental Education”

- NPO/wide-range cooperation (Utilization)
- Inspection & Training (Plant tour & Nature Experience)

『環境と産業の矛盾無き共存を実現』 … 企業の自然保護活動の好事例 …



「生物多様性保護の好事例」
としてOECDのHPに掲載

2011年6月

グッドデザインアワード
2012受賞

◆カテゴリー

産業領域のための空間・建築・施設

緑化推進功労者
内閣総理大臣表彰

2013年4月

緑化推進功労者表彰

緑化推進功労者 内閣総理大臣表彰

●2013.4.26

天皇陛下ご臨席の中、憲政記念会館で
授賞式とレセプション開催。

●背景となる授賞履歴

工場立地法にもとづく緑地の形成と
社会的な活用マネジメントが評価

- ・2003 日本緑化センター会長賞
- ・2005 緑化関東経済産業局長賞
- ・2008 緑化経済産業大臣賞



2014年4月

“サンデン みどりの日”制定



「サンデン みどりの日」の制定

◆実施事項

- ・『サンデンみどりの日』の趣旨を全社員へ伝達。
- ・『1拠点1環境シンボル活動』スローガンの推進。



基本的考え方

サンデングループは、事業活動が及ぼす生態系への影響を認識し、「環境と産業の矛盾なき共存」を目指した活動を展開し、持続可能な社会の実現に貢献する。

取り組み

1. 人と自然が共存する事業活動を推進する
2. 生態系に配慮した資源を積極的に利用する
3. 地域と連携・協力しグローバルな視点で活動する
4. 自然の恵みを学ぶ環境教育活動を展開する
5. 行動の成果を広くステークホルダーに発信する

サンデンフォレスト・赤城事業所

生物多様性への取り組み

(環境と産業の矛盾なき共存)

二つの候補地



赤城山

1) 赤城山南麓
(国道353号沿い、標高480m)

- 20万坪×5万円/坪 = 100億円
- 全面自由なレイアウト

2) 伊勢崎市三和工業団地
(北関東道:伊勢崎IC隣接)

- 5万坪×20万円/坪 = 100億円
(3万坪+2万坪)
- 工場立地法の制約(緑地25%)

どちらの土地に価値があるか？



◆造成前のサンデンフォレスト

- ・廃業した鶏舎の廃屋
- ・放置された桑畑
- ・未整備の森林……

◆C・W ニコルに視察/評価

“この森は、木の畑。
人間の手を加えて直したほ
うがいい。開発全てが自然
破壊ではない。”



SandenForest

面積	64ha
工場用地	32ha
自然環境	32ha (+6ha)
標高	480m

所在地 群馬県前橋市粕川町中之沢
(202.4稼働)

サンデンフォレスト開発ビジョン

挑戦 創造 貢献

Challenge Create and Contribute

サンデンフォレストは、豊かな自然環境との共存を基本に最先端技術への挑戦、次世代事業の創造、以って社会への貢献を果たすための拠点とする。

平成十四年四月

サンデン株式会社
代表取締役会長

牛久保雅美
Masayoshi Ushikubo

特 徴

①近自然工法（開発）

②環境モニタリング調査（測定）

③NPO／広域連携（活用）

- ・森づくり（環境保護）
- ・人づくり（環境学習）

④視察受入（工場＋自然体験）

近自然工法



作家/ナチュラリスト
C.W.ニコル 氏



西日本科学技術研究所 代表
福留 脩文 氏

- 環境保全と産業発展を矛盾無く共存させる
(工場と生物多様性が共存した場所)

近自然工法

- ◆ 1970年代にスイス・ドイツで誕生
- ◆ 水際や林縁部に生物の生息環境を再生
 - ◆ 分断された自然環境を結ぶ
- ◆ 日本の気候風土にあわせた伝統的な石積み技術を採用

あとは自然の力に任せて再生させる
(水、大気、土壌の基盤だけをつくる)

近自然工法



宅地の境界は、植林されたゆるやかな法面とした

- 曲線化を重視し、自然の地形を再現させた
- 生き物の生息域と、その連続性を確保した
- 植林は、郷土種(潜在植生)のみを行った

近自然工法



防災用の調整池をビオトープ化した

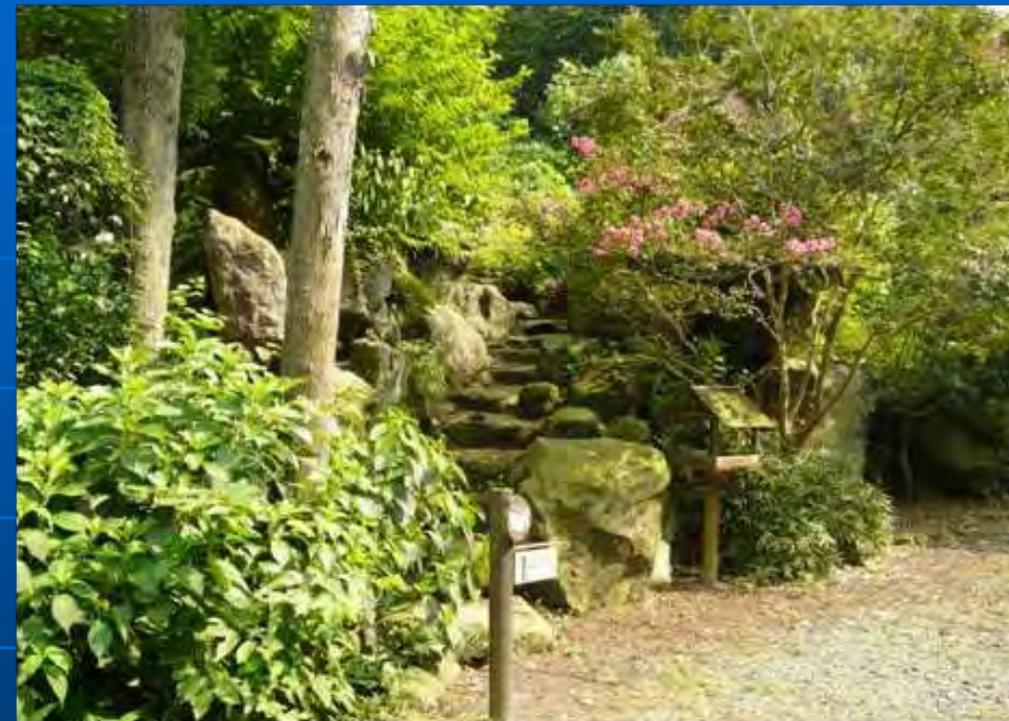
- 池、湿地、草地、森へのエコトーン(推移帯)を構成させた
- 敷地外へ流出する水質を最終管理する

近自然工法



コンクリートダムは、蔦などを這わせて、生き物の移動・生息空間とした

近自然工法



ダム脇や急峻な斜面は、日本の石積み工法を採用

- ・土佐の崩れ積み(400年の歴史的技術)
- ・多孔質な空間に生物の生息域が生まれる

特 徴

①近自然工法（開発）

②環境モニタリング調査（測定）

③NPO／広域連携（活用）

- ・森づくり（環境保護）
- ・人づくり（環境学習）

④視察受入（工場＋自然体験）

環境調査 狙い

- ◆造成前(1998)の自然環境を把握する
- ◆造成後の、自然環境復元の推移を
具体的・定量的に把握する
(2002~2011 3年ごとに)
- ◆データにもとづき適切な管理を実施する

日本の里山の象徴種(キンランやホタルなど)
の復元を目指す(指標)

環境調査 対象

◆植物相の定点調査

- 推移/変化の有無
- 貴重種の存続状況
- ビオトープの効果 他

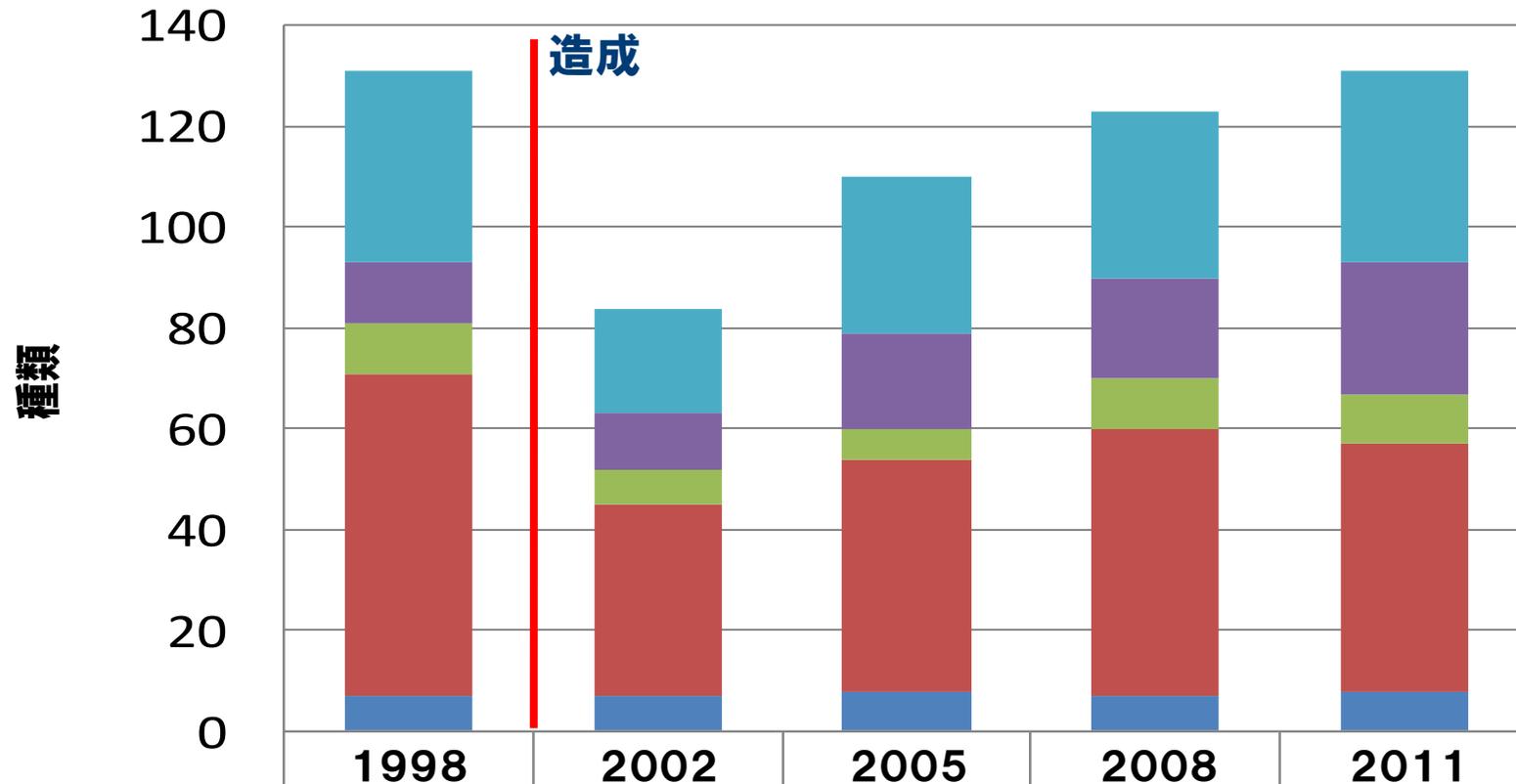
◆動物相の調査

- 推移/変化の有無
- 貴重種の存続状況
- ビオトープの効果
- ホタル等象徴種の確認状況

◆維持管理方法の検証

環境調査

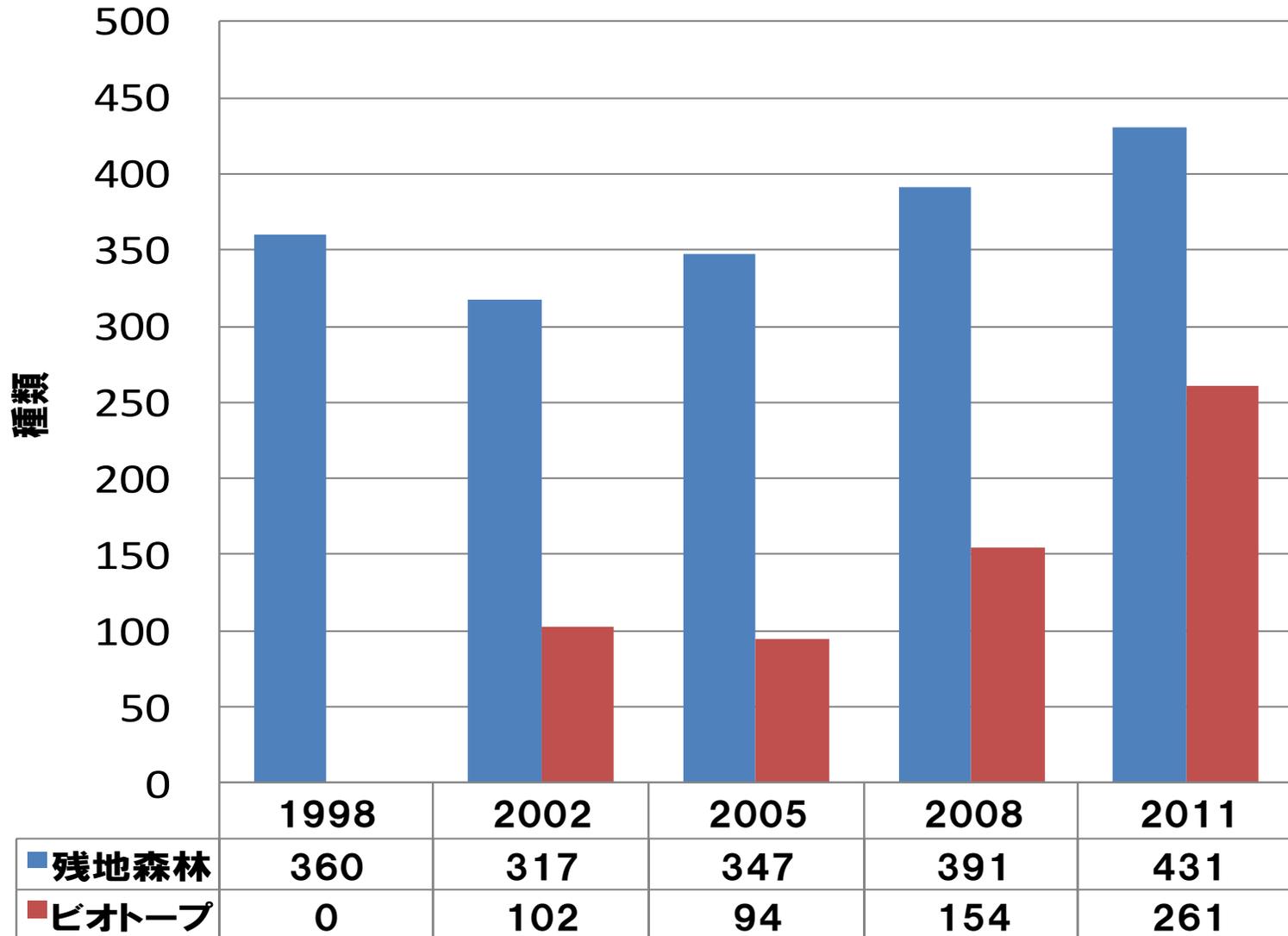
生き物の推移



■ チョウ類	38	21	31	33	38
■ トンボ	12	11	19	20	26
■ 爬・両生類	10	7	6	10	10
■ 鳥類	64	38	46	53	49
■ 哺乳類	7	7	8	7	8

環境調査

植物の推移



環境調査

	名 称	群馬県RDL	環境省RDL
哺乳類	テン	準絶滅危惧	-
	イタチ	注目	-
鳥類	オオタカ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
	ハイタカ	準絶滅危惧	準絶滅危惧
両生類	ニホンアカガエル	絶滅危惧Ⅱ類	-
	ツチガエル	注目	-
魚類	メダカ	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類
昆虫類	(トンボ)ムカシヤンマ	絶滅危惧Ⅱ類	-
	ヤブキリ	絶滅危惧Ⅱ類	-
	クギヌキハサミムシ	絶滅危惧Ⅱ類	-
	ニイニイゼミ	注目	-
	ヤマトタマムシ	絶滅危惧Ⅱ類	-
	ゲンジボタル	絶滅危惧Ⅱ類	-
	ヘイケボタル	準絶滅危惧	-
	チャイロホソヒラタカミキリ	準絶滅危惧	-
	シロスジカミキリ	準絶滅危惧	-
	(蜂)ベッコウバチ	絶滅危惧Ⅱ類	-
	(蝶)ムラサキシジミ	準絶滅危惧	-
	(蝶)オオムラサキ	準絶滅危惧	準絶滅危惧

特 徴

①近自然工法（開発）

②環境モニタリング調査（測定）

③NPO／広域連携（活用）

- ・森づくり（環境保護）
- ・人づくり（環境学習）

④視察受入（工場＋自然体験）

広域連携推進体制と特徴

サンデン(株)
総務本部
環境推進本部
赤城事業所

業務委託

サンデン
ファシリティ(株)
ECOS事業部

Environmental
Coordination
Operations
Staff
(CWニコル氏 命名)

**生態系
保全**
(生物多様性)

**社会的
活用**
(社会貢献)

森の管理(≒林業) ⇒ Q・C・D

モノサン

生態系調査(3年毎)

自主アセス

CO2吸収量(毎年)

群馬県認定

広域連携

NPO法人ぐんま森林インストラクター会

提携

みどりのインタープリター協会

提携

NPO法人群馬自然保護連盟

提携

(一財)アファンの森財団

提携

体験の機会の場合認定(環境省・前橋市)

環境学習、小中学校の社会科学習

50校以上

広域連携

NPO法人あかぎくらぶ

独自活動

クリーン・グリーン・エコネットワーク

50団体

広域連携

NPO法人赤城自然塾

140団体

NPO法人あかぎ元気会議

参加

あかぎくらぶ

環境大臣表彰「地域環境保全功労者」表彰を受賞 (2012年6月)

【表彰理由】

サンデンフォレストを活用した野外教育活動の継続的な実施、森林保全でのボランティア活動などが高く評価された。



理事長の天田清之助さんと頂いた表彰状



子ども樹木博士の様子

連携活動（NPO）

- 1) NPO あかぎくらぶ設立（2003. 6）
- 2) 赤城山周辺の団体・個人・企業約100団体
⇒赤城クリーングリーンエコネットワーク設立（2005. 7）
- 3) NPO 赤城自然塾（環境学習中心）設立（2010. 12）

自然と遊び、自然に学ぶ、人づくり。

赤城自然塾

赤城山周辺 環境教育プログラム・ガイド

周辺施設・個人など110団体の連携活動

連携活動（NPO）

NPO赤城自然塾の事業⇒FACEプロジェクト



Field

森(生物多様性)の場づくり

Education

環境教育指導者の育成

Approach

都市部(東京)との交流

110団体の事務局をサンデンフォレスト内に設置して
広域での環境連携活動を行う要(中心)としている

連携活動（あかぎくらぶ）



【環境教育・活動】

上左：日本野鳥の会指導による
野鳥観察会

上右：上州水辺学会指導による
Eボート（水辺から自然観察）

下左：群馬星の会指導による
天体観察会
（弊社牛久保会長も参加）

連携活動（あかぎくらぶ）



震災復興支援イベント

2011.3の大震災で避難している
子供たちを招いて、2泊3日の
体験活動を実施(3回)



ボーイスカウトキャンプリー

ボーイスカウトやガールスカウトの
夏のキャンプを毎年開催
(関東平野の夜景を見ながら)

連携活動（NPO）



【サンデン社員の森づくりPj】

毎年、新入社員の研修として
森づくりの体験を実施
（森林組合や森づくりNPOの指導）

連携活動（NPO）



事務局

サンデンフォレスト「森の教室」に設置し
行政・企業・NPO・大学との協働の
要(中心)的役割を推進



指導者育成

赤城山ガイドボランティア要請講座など
指導者やインタープリターの要請講座を
積極的に推進

連携活動（NPO）



畜産版5S活動

整理・整頓・清掃・清潔・躰の5Sノウハウを
地域の畜産業に展開

●地域の課題を一緒に解決



都市との交流事業

エコツーリズムにより、東京の市民と群馬の
市民との共同での森づくり

●新しいツーリズムのあり方を発信

連携活動（行政）

CO2吸収量認定制度

■ 京都議定書を受けた県レベルの行動

- ・H24年(2012年)までに、140000haの森林整備 ⇒ 現在 87%の進捗。
- ・群馬県地球温暖化防止条例(H22年4月～)
 - ⇒ 第35条「森林の保全及び整備等」(努力規程)
- ・「企業参加の森林づくり事業」(H17年～)
 - ⇒現在、26団体参加。(公有林対象)

活動が「頭打ち」の状態
(資金面・敷地 等)

- 
- (1)温暖化防止対策の一環とした、森林の保全・整備の推進
 - (2)企業・自治体・団体などの森林づくり活動の拡大

H22年 活性化施策

「森林整備によるCO2吸収量認定制度」

三者協定を締結

(群馬県・サンデン・サンデンファシリティ)

連携活動 (NPO)



2010年
群馬県からCO₂認定
(立木 537t-CO₂)

2012年～実施
土壌のCO₂固定量調査
(管理とCO₂との関係)



連携活動（行政）

前橋市との連携

環境教育等促進法 「体験の機会の場の認定」

サンデンフォレスト赤城事業所

県内初環境学習の場

前橋市認定、全国7例目

サンデン（伊勢崎市寿町、山本満也社長）のサンデンフォレスト赤城事業所（前橋市粕川町）が、自然体験活動を積極的に推進する「環境教育等における体験の機会の場」として県内で初めて認定された。

前橋市が1日付で認定した。環境教育等促進法に基づく認定制度で、所有する土地や建物で自然体験などの機会を適切に提供している国民や民間団体において、認定者には都道府県知事や中核市長など、これまでに全国で6例認定されている。

2002年に開所した同事業所は、生物多様性に配慮して整備され、事業所見学や自然観察会など部外者を積極的に受け入れている。同社は「今後も多くの団体と連携し、多様な体験型の環境学習を企画したい」としている。

県内租税収納 3年ぶり増加

13年度

2013年度に県内（税）は前年度比7.3%増の4707億81

で納められた租税（国）



前橋市長より認定書を授与



特 徴

①近自然工法（開発）

②環境モニタリング調査（測定）

③NPO／広域連携（活用）

- ・森づくり（環境保護）
- ・人づくり（環境学習）

④視察受入（工場＋自然体験）

連携活動（行政）

長期社会体験研修の先生受入れ

竣工以来、毎年群馬県教育委員会から長期社会体験研修で小・中・高校の先生を継続して受入れ。



みどり市立笠懸小学校教諭の青柳寿美江さん

- ◆教育機関受入れ時のフォレスト説明や工場案内などの研修
- ◆国蝶のオオムラサキや天蚕やホタルの飼育観察、
- ◆自然体験の教材の製作と、環境教育のアドバイス

学習施設



森の教室

SF管理事務所
NPO事務局
自然塾事務局

ソーラー パネル

定格出力
300kw

天蚕・オオムラサキ施設

蚕の原種育成

西ピオトープ周辺

近自然工法
ホタル生息域

自然活動エリア

コナラ
ヤマザクラ
エゴノキ

幼虫時代を
過ごすエノキ

オオムラサキの樹

東ピオトープ周辺

近自然工法

木漏れ日 の森

雨水利用
果樹保全

社員の森/室沢交流の森

フォレストを愛する
森林整備事業

大林沼

水鳥の宝庫

★:絶滅危惧種等の保護地区

工場見学案内



工場で学び

自動販売機のできるまで

森で遊び・学ぶ

サンデンフォレストの自然体験活動



森の教室でサンデンのことを学ぶ



森を歩いて自然のことを学ぶ



身近な自動販売機のしくみを学ぶ



自動販売機のできるまでを学ぶ



体験する



生まれたばかりのキヤ



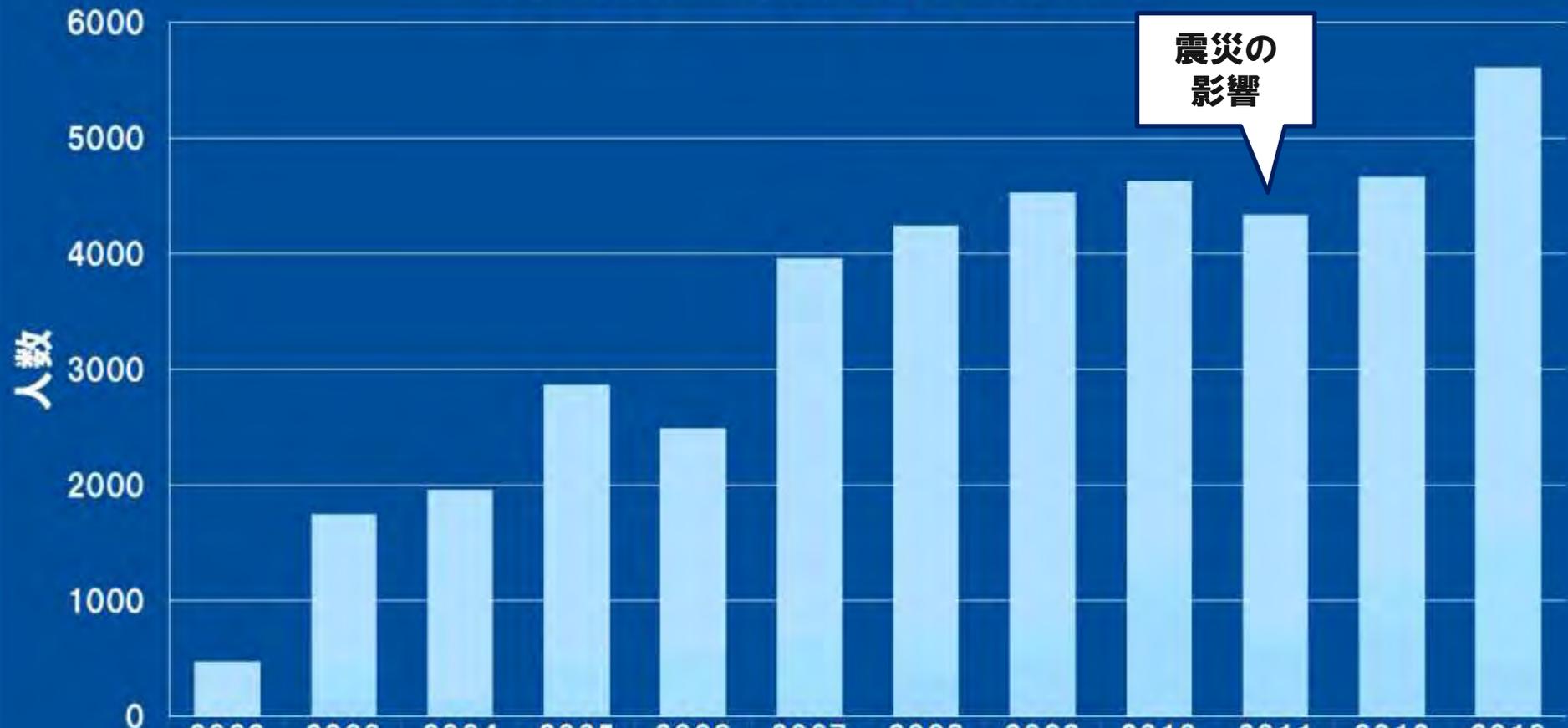
感動する



自動販売機の歴史や文化を学ぶ

子供達の受入実績

環境活動の利用者(学校関係)



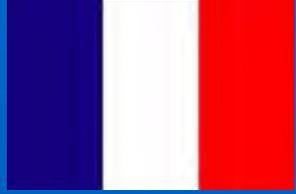
	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
■ 小学校	474	1322	1835	2429	1951	3297	3570	3727	3309	3581	3466	4065
■ 中学校		269	10	398	468	497	257	287	261	140	432	1121
■ その他		159	111	40	75	166	415	519	1063	617	765	430

サンデングループ

生物多様性への取り組み

(環境と産業の矛盾なき共存)

海外現地法人での活動



グリーン プラント プロジェクト

SME(フランス)

SMEでは、2013年9月よりグリーン プラント プロジェクトを発足し活動しています。この活動は、エネルギー、水、生物多様性等の環境問題に対するものです。5年先を見据えての継続的な活動であり、SMEの環境への方針を基に取り組んでいます。今回は、生物多様性への取組みとして、大雨等で倒れた木の幹や丸太、板等を使って森に住む様々な生物の繁殖をサポートする住処を作りました。



海外現地法人での活動



Green Children Project

SVE(イタリア)

SVEの社員が地元の小学校とプロジェクトを組み、社会的・倫理的・持続可能な行動について学ぶことを目的として、「エネルギーの削減」「環境の尊重」をキーワードにゲーム形式で授業を実施していきます。



海外現地法人での活動



SIM(マレーシア)

「ハイビスカス賞」受賞



「ハイビスカス賞」 The Prime Minister's Hibiscus Award

1996年創設、1998年から首相表彰となった。優れた環境改善活動を行っている企業に贈られる国家環境賞。SIMは、環境に対する顕著な功績により、2007年に受賞。



海外現地法人での活動



World Environment Day-2014

SVL(インド)

6月5日(木)、World Environmental Day (WED) をPVLにて開催しました。

このイベントは昔から開催されており、毎年6月5日に自然環境保護を目的に開催しています。ディレクターより可能な限りの植樹と周辺地域の環境に配慮した会社活動を行っていくといった話があり、25本の木を工場敷地内に植樹しました。

World Environment Day開催にあたりポスターやスローガンの募集がありますが、社員は毎年熱心に意見を出し合っています。



地域清掃活動への参加



ポーランド



北海道支社



赤城山清掃



SIT(台湾)

SABATO SCORSO HANNO RIPULITO OTTO AREE VERDI E DA GIOCO



Dipendenti Sanden giardinieri in città

Prosegue la collaborazione tra la SandenVendo Euroee e il Comune di Casale Monferrato. Sabato i dipendenti si sono ritrovati per ripulire otto a

イタリア



本社



東京(大江戸清掃隊)

今後の展開

● ESDの推進

⇒SFオリジナルな環境学習Pg策定と発信

● CO₂吸収固定促進を狙い

⇒土壌中CO₂と森林品質との相関関係の研究

● 生物多様性促進に向けて

⇒NPO連携による環境調査の自前化・広域化
(2013～野生動物調査開始)

● 地域活性化に向けて

⇒認定エコツーリズム推進協議会(立ち上げ)



ご利用方法

- 学校の社会体験活動
- 地域や団体の視察
- 企業や大学の研修
- NPOとの協働
- 環境イベント利用など

視察・研修については
Webでご確認の上
お申込み願います
(全て個別にアレンジします)





Thank you